

2024年6月

公益社団法人 神奈川県病院協会  
会長 吉田 勝明 様

株式会社神奈川新聞社  
代表者名：代表取締役社長 須藤 浩之

『2024年がん征圧キャンペーン』特集へのご協力をお願い

謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別なるご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、神奈川新聞社では、今年も9月のがん征圧月間に、がん征圧に対する県民の意識向上を図ることを目的とした「2024年がん征圧キャンペーン」特集の掲載を予定しております。これは弊社が例年、貴会のご協力にて特集しているもので、日本人の死亡原因第1位である「がん」に立ち向かうため、「がん治療の今」や「がん検診の大切さ」を広く県民に伝えることを目指した企画です。この特集に対する読者の期待は大きく、弊社としてもその期待に応えるべく全力で取り組む所存でございます。

つきましては日夜、県民の健康維持に努められております貴会のご協力を是非、賜りたくお願いする次第でございます。趣旨ご賢察の上、ご高配賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

2023 がん征圧月間キャンペーン特集

KEYWORD

※1 がん罹患患者数 厚生労働省、国立がん研究センターが2022年に公表した「2019年の全国がん登録」によると、新たにがんと診断された人は99万9,075人に上った。

※2 HPVワクチン ヒトパピロマウイルスのワクチン。小学校6年から高校1年相当の女性を対象に定期接種が行われている。対象年齢の間に接種を逃した人のために、公平な接種機会を確保するため、対象年齢を超えて接種を行う「キャッチアップ接種」も行われている。



※3 1型糖尿病、2型糖尿病 1型糖尿病は、主に自己免疫学的仕組みにより、インスリンを分泌する膵臓のβ(ベータ)細胞が破壊され、インスリンが出なくなるために高血糖状態となる糖尿病。本来外敵から体を守るための免疫が、間違えてβ細胞を標的にしてしまい、破壊してしまう。詳しい原因はまだ分かっていない。2型糖尿病は、生活習慣病としてよく知られる糖尿病のこと。遺伝的な体質(インスリン分泌低下、インスリン抵抗性)に過食、運動不足、肥満が加わることでより起こる。食事の改善や適度な運動に、薬を上手に組み合わせるといった治療が重要になる。

※4 「糖尿病とがんに関する委員会報告」日本糖尿病学会と日本癌学会による合同委員会は、糖尿病とがん罹患リスクや予後などに関する検討を行い、2013年7月に委員会報告を発表した。

※5 がんの治療法 がん治療には、大きく分けて手術治療、薬物療法(抗がん剤治療)、放射線治療の三つがある。どれか一つを行うこともあれば、二つ以上の治療法を組み合わせることもあり、がんの種類や進行度、初回治療が2回目以降かなどによって、治療法が変わる場合もある。

早期発見、予防のポイント 早期発見、予防のポイント... 遠藤 ます、先ほどの高井先生のお話に補足をさせていただきます。...

寺内 糖尿病の患者さんの場合、血糖値以外に「ちよつと変だな」と感じる点があれば積極的に相談できる関係が、かかりつけ医の先生との間で築いていただきたいですね。...



がんも糖尿病も「早く見つけること」に尽きる 神奈川県医師会 理事 笹生 正人医師



今や糖尿病は「治る病気」根元よく治療を 神奈川県医師会 理事 高井 昌彦医師

早期発見、予防のポイント... 遠藤 ます、先ほどの高井先生のお話に補足をさせていただきます。...

病氣・治療とどう向き合うか... 一方、がんや糖尿病に罹ってしまった場合は、どのように病氣と向き合えば良いのでしょうか。...

寺内 患者さんのまわりには、家族はもちろん、例えば看護師や薬剤師、管理栄養士や検査のプロである検査技師など、さまざまな専門スタッフたちがいます。...



病氣・治療とどう向き合うか... 遠藤 糖尿病の方の膵臓は腸内細菌の多様性が失われているという論文もあります。偏りのない食生活も大切です。...

寺内 肥満を伴う2型糖尿病においては、食生活と運動習慣、体重管理が、血糖値のマネジメントの観点から大切です。...

毎年9月は「がん征圧月間」です。

都道府県がん診療拠点病院 がんゲノム医療拠点病院 神奈川県立がんセンター 重粒子治療件数 3,150件 (2023年8月31日時点) 電話 045-520-2222 (代表) 平日8:30~17:15

学校法人 総持学園 鶴見大学歯学部附属病院 院長 小川 匠 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 ☎045-580-8500(代) 神奈川がん診療連携指定病院 社会医療法人社団三思会 東名厚木病院 がん相談支援センター 直通ダイヤル 046-229-2552 平日9:00~16:00

がん征圧月間 スローガン ツルミ印刷株式会社 Economy and Ecology 〒230-0034 横浜市鶴見区寛政町9-4 TEL 045(508)6686 FAX 045(508)7955 http://www.tsurumi-p.co.jp

横浜薬科大学 YOKOHAMA UNIVERSITY OF PHARMACY 薬学(16年制) 健康増進学(4年制) 薬学(4年制) 薬学(5年制) 薬学(6年制) 薬学(7年制) 薬学(8年制) 薬学(9年制) 薬学(10年制) 薬学(11年制) 薬学(12年制) 薬学(13年制) 薬学(14年制) 薬学(15年制) 薬学(16年制)

生活習慣病防止運動を推進します。 ツルミ印刷株式会社 Economy and Ecology 〒230-0034 横浜市鶴見区寛政町9-4 TEL 045(508)6686 FAX 045(508)7955 http://www.tsurumi-p.co.jp

一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院 院長 熊切 寛 〒252-0802 藤沢市高倉 2345 TEL 0466-44-1451 医療総合会社 望星サイエンス株式会社 〒243-0036 厚木市長谷260-29 ☎046-270-6051(代表)

SHIBAHASHI Tel. 045-312-5700 www.shibahashi.co.jp TOHO GROUP 株式会社 東邦グループ 横浜市中央区住吉町 2-24 KYビル8F TEL 045-201-4600

1 かながわがん対策募金のお願い がん患者の方、ご家族の方、そして早期発見・予防のために。みなさまの善意はこのような事業に役立てられます。 2 がん患者 家族への支援 小児がん患者・がん教育への支援 がんの早期発見 がんに対する理解の促進 かながわ がん対策募金 検索 お問い合わせはこちら tel 045-243-6933 若い女性を対象としたがん教育

座談会

現代が抱える二つの重要疾患

がんと糖尿病の関係とは

2023 がん征圧月間キャンペーン特集

がん検診の受診率向上を

日本人の死亡原因のトップはがんで、死因の27.6%を占めている(2020年)。その中でも呼ばれている。共に国が定める「重要疾患」に数えられているこの二つの病気に、共通した危険因子など深い関係があることが明らかになってきた。今回は、それらの専門の立場から、横浜市立大学の遠藤格副学長と寺内康夫医学部長、神奈川県医師会から若生正人、高井昌彦副理事の4人に登場いただき、二つの疾患の特徴や傾向、治療への臨み方などについてお話しいただいた。

司会・神奈川新聞社取締役編集局長 秋山理紗



家族、専門スタッフとのチームで病と闘う  
横浜市立大学 医学部長  
大学院医学研究科 分子内分・糖代謝内科学教授  
寺内 康夫 医師  
てらうちやすお 2005年より現職。専門は糖尿病学。日本糖尿病学会リリー賞、日本内分泌学会研究奨励賞、ヘルツ賞(他5名の共同受賞)受賞。現在、日本糖尿病・肥満動物学会理事などを務める。



“がん=死”は過去の話  
あきらめずに向き合おう  
横浜市立大学 副学長  
大学院医学研究科 消化器・腫瘍外科学教授  
遠藤 格 医師  
えんどういたる 2009年、横浜市立大学大学院消化器・腫瘍外科学講座主任教授に就任。16年、同大学付属病院副院長、18年、同大学副学長・理事就任。日本肝臓病学会理事。

危険因子の一つであるウイルス性肝炎のウイルスを駆除する薬が普及したことが大きく影響している。2019年には、およそ99万9千人の方ががんを診断されました。今後は、男性の65%、女性の51%ががんに罹る時代です(※1)。遠藤先生のおっしゃった、胃がん、肝臓がんの減少はまさしく医学の進歩を表しています。ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌は2014年に保険が適用されるようになり、大きく広がりました。中・高校生時代の胃がんに罹患リスクがほぼゼロになるというデータもあり、医師会としても積極的に進めていきたいですね。

がんは、高齢になるほど罹患率が高くなりますが、女性特有の乳がん、子宮頸がんは40歳代までの若い方に多いのが特徴です。なお、子宮頸がんはHPVワクチン(※2)で予防できます。

がん検診の重要性についてはいかがでしょうか。がん検診には「対策型検診」と「任意検診」(11面参照)があります。「対策型検診」は検診を行うことで対象集団の死亡率が下がることが明らかになっています。遠藤 せひ、ご紹介したように、自治体の住民検診がこれにあたります。五大がんと呼ばれる、胃がん、子宮頸がん、肺がん、乳がん、大腸がんに対して行われています。今後の大きな課題は受診率の向上です。現状では受診率50%を超えているのは男性の肺がん検診(53.4%)のみです。全体的な受診率を60%まで引き上げるのが目標です。

胃がんの内視鏡検査や、地域によっては肺のCT検査が加わるなど、検査項目や技術も進んでいます。ただ、積極的に受診してください。もう一つの課題は精密検査受診率を90%まで高めることです。検診で問題があっても、精密検査に行かない方もいらっしゃると思います。助かる命を助けるためにも、精密検査受診率向上を目指し、今後取り組んでいきたいと思っています。

糖尿病患者のがんリスク

「糖尿病とどんな病気なのか、また、がんとの関係についてお伺いしたいと思っています。」  
寺内 糖尿病には1型と2型があり(※3)、さまざまな原因で起こる病気だということ、まず知っていただきたいですね。よく知られているのは2型ですが、血糖値のコントロールを怠るとインスリンという物質が適切に分泌されなかったり、インスリンは

出ているにもかかわらず効かなかったりという二つの大きな側面があります。特に後者に関しては、肥満という要因が大きいです。肥満と糖尿病が、がんとの関係が強いのもこの「肥満型糖尿病」です。日本人の肥満の程度は糖尿病の患者の数には密接な関係があります。今、糖尿病の方は約1千万人、その予備軍が約1千万人といわれていますが、特に中高年以降の男性の肥満の程度が増しており、日本の人口が減らない限り、糖尿病の患者さんは減らないのではないかと、そんな予感があります。

高井 糖尿病の患者さんの死因で一番多いのが、実はがんなんです。次いで感染症、脳血管障害、と続きます。患者さんを診ていて、急に血糖値が上がってきた、特に原因が見当たらないのに急に悪くなった、といったときには、必ずがんを疑います。高齢者で糖尿病を発症した場合、「がんがあるかもしれない」ということを頭に置いておかないと、見逃してしまうことにもなりかねません。先ほど、遠藤先生からもお話があったように、なかなか見つけにくい臓器は、特に要注意です。糖尿病の患者さんへのエコー検診などをどのように徹底していくかが、これからの大きな課題です。

遠藤 がんが亡くなった糖尿病患者は38.3%。これは一般的な日本人が亡くなったときの確率よりも10%ほど高い数字です。寺内 最近では早期にがんを見つけているケースが増え、私自身の糖尿病の患者さんでも、がんが亡くなる方が減ったと実感しています。社会全体ががんを少しでも早く見つけようという雰囲気になってきていることが大きいのではないかと、思っています。

高井 がんの化学療法に使用する薬剤が糖尿病を悪化させることは、臨床でよく経験することです。そのため、がんにかからないように予防することは大切です。そして何よりも早期にがんを見つけていただくことが重要です。膵臓がんは見つけにくい、治しにくいがんですが、特に糖尿病が悪化した時点で見つかる膵臓がんというのは良い結果が得られないことが多い、悪くなる前に見つけることがとても重要になっていきます。

若生 糖尿病に関しては、やはり早期発見が大切です。糖尿病もがんも同じ生活習慣病。危険因子としては過度な飲酒、喫煙、食生活など、共通した因子も多いためです。医師会として、その関係性などを、積極的に広報していきたいと思っています。



糖尿病患者の死因(2001~2010年)

悪性新生物	38.3%
感染症	17.0%
脳血管障害	6.6%
虚血性心疾患	4.8%
腎障害	3.5%
その他	29.8%

がん、その予防についての正しい知識の徹底と早期発見・早期治療の普及に全国の組織をあげて取り組みます。(順不同)

「安心を明日につなぐがん検診」  
公益財団法人日本対がん協会 2023年度がん征圧スローガン

市民の健康と福祉を守る 横浜市医師会 会長 岡野 敏明 川崎市中区小杉町3丁目26番7 ☎044-711-3011	公益社団法人 川崎市医師会 会長 岡野 敏明 川崎市中区小杉町3丁目26番7 ☎044-711-3011	一般社団法人 相模原市医師会 会長 細田 稔 〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-1 相模原市総合保健医療センター5F TEL.042-755-3311 https://www.sagamihara.kanagawa.med.or.jp/
一般社団法人 横須賀市医師会 会長 三屋 公紀 〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL.046(822)0542	一般社団法人 三浦市医師会 会長 塩崎 一正 〒238-0221 三浦市三崎町六合32 三浦合同庁舎2階 TEL.046(881)2376	一般社団法人 逗葉医師会 会長 田嶋 博雄 逗子市池子字敷戸1892番地6 TEL.046(871)3405(代)
公益社団法人 藤沢市医師会 会長 石原 宏尚 〒251-0032 藤沢市片瀬339-1 TEL.0466-22-3041 FAX.0466-27-8799	公益社団法人 鎌倉市医師会 会長 山口 泰 〒248-0013 鎌倉市材木座3-5-35 TEL.0467(22)1245	一般社団法人 茅ヶ崎医師会 会長 高山 慶一郎 〒253-0041 茅ヶ崎市茅ヶ崎3-4-23 ☎0467(87)2731
一般社団法人 平塚市医師会 会長 久保田 亘 平塚市東豊田448-3 TEL.0463(52)0355	公益社団法人 大和市医師会 会長 横田 隆夫 大和市鶴間1-28-5 TEL.046(263)3171	一般社団法人 座間綾瀬医師会 会長 五十棲 優 座間市緑ヶ丘一丁目1番3号 ☎046(251)0279
一般社団法人 海老名市医師会 会長 高橋 裕一郎 海老名市さつき町41番地 ☎046(234)3241	一般社団法人 秦野伊勢原医師会 会長 秋澤 孝則 〒257-0031 秦野市曾根11番地 ☎0463(81)5018	一般社団法人 小田原医師会 会長 渡邊 清治 小田原市久野115-2 おたわら総合医療福祉会館4階 ☎0465(35)5677
一般社団法人 厚木医師会 会長 三宅 正敬 厚木市厚木町6-1 厚木医療サポートセンター ☎046(222)1259	公益社団法人 川崎市病院協会 会長 内海 通 〒211-0067 川崎市中区今井上町1-34 和田ビル3階 ☎044(711)9344	公益社団法人 相模原市病院協会 会長 土屋 敦 〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-1(相模原市総合保健医療センター5F内) TEL.042(755)0531 FAX.042(755)0532 E-mail: sagamihara-h.a@mist.ocn.ne.jp ホームページ: http://rs-na.or.jp
公益社団法人 神奈川県歯科医師会 会長 守屋 義雄 〒231-0013 横浜市中区住吉町6-68 ☎045(681)2172	公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 会長 山田 裕之 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 TEL.045-761-3345 FAX.045-761-3347	公益社団法人 神奈川県薬剤師会 会長 小川 護 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11(神奈川県総合保健センター2F) TEL.045-761-3241 FAX.045-751-4460
一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会 会長 芹澤 昭彦 〒231-0023 横浜市中区山下町51番地1 読売横浜ビル5階 TEL.045-212-2862 / FAX.045-479-8884	公益社団法人 神奈川県放射線技師会 会長 田島 隆人 〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地8 ストーク伊勢佐木一番館501号室 電話 045-681-7573	公益社団法人 神奈川県医師会 会長 菊岡 正和 〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 (神奈川県総合医療会館内) 電話 045(241)7000
一般財団法人 神奈川県労働衛生福祉協会 会長 赤城 邦彦 〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町2丁目44番9 ☎045(335)6900 FAX.045(335)7179	神奈川県保険電協 理事長 川辺 由紀夫 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 TSプラザビルディング2F ☎045(313)2111	公益社団法人 神奈川県病院協会 会長 吉田 勝明 〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 (神奈川県総合医療会館内) 電話 045(242)7221

## 2024年がん征圧キャンペーン特集企画案

掲載日：2024年9月中旬＝予定

紙面内容： 4頁

記事 8 段  ・患者会の方のお話 ・がんに関する情報 ・その他	記事 8 段×2ページ  ・医師や医療関係者による座談会や対談 ☞最新のがん治療について&検診情報についての発信を行う。	記事 8 段  ・県医師会会長様ご挨拶 抄文 ☞近年のがんの特徴や、がん検診の重要性について発信する。	
広告7段	広告7段	広告7段	広告7段

### 1面（フロント）

- ・ 県医師会会長様ご挨拶
- ・ 近年のがんの増加傾向やがん検診の重要性
- ・ その他

### 2・3面（見開き）

- ・ 「最新のがん治療」をテーマに専門医数名の座談会で、従来の3大治療に加え実施可能となった最新の治療を紹介していただきます。

### 4面（終面）

- ・ 患者会の方などに、がんに関する情報や自身の経験などのお話をおうかがいいたします。

#### 【お問い合わせ】

神奈川新聞社 クロスメディア営業局

広告部 デジタル部 松浦 伶

電話：080-4427-1703 / メール：r-matsuura@kanagawa-shimbun.jp